

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society

NO.12

第 43 回大会開催によせて

大会準備委員長 窪田 眞二

日本比較教育学会第 43 回大会は、本年 6 月 30 日、7 月 1 日に筑波大学で開催することとなりました。前回筑波大学で開催してから 13 年が経過し、この間に学会の研究発表の質量共に充実してきましたことを準備委員会としても実感しているところです。今回は、大学会館で大会を開催することができましたが、発表会場数が大幅に増えておりますので、旧第 2 学群棟（学群再編のため、学群名は 2007 年度より人間学群となります）を使用いたします。

一昨年 8 月末に、つくばエクスプレスが開通し、東京の秋葉原駅からつくば駅まで最短 45 分で来ることができるようになりました。つくば駅からのバスルートも変わって便利になっております。ようやく「陸の孤島」から脱することができましたので、さらに多くの会員をお迎えすることができると思います。

第 43 回大会では、6 月 29 日（金）に紀要編集委員会・常任理事会・全国理事会が開かれ、研究発表等の日程は次の通りになります。

6 月 30 日（土） 午前中：自由研究発表、午後：課題研究・総会・懇親会

7 月 1 日（日） 午前中：自由研究発表、午後：公開シンポジウム・ラウンドテーブル

公開シンポジウムでは、世界のシチズンシップ教育の動向と課題に関するシンポジウムを、課題研究では、国際教育協力における日本型教育実践の応用可能性に関する企画と、オールタナティブ教育の国際的動向に関する企画がそれぞれ組まれています。

大会準備委員会事務局一同、会員の皆さまのご来校をお待ち申し上げます。

第43回大会のご案内

2007 年度の第 43 回大会は、筑波大学で以下の要領で開催されることになりました。多数の会員の皆様にご参加くださいますようご案内申し上げます。

日 程：2007 年 6 月 30 日（土）～7 月 1 日（日）

会 場：筑波大学人間学群 2 A 棟、2 B 棟、2 H 棟（旧：第 2 学群 A・B・H 棟）

連絡先：大会準備委員長 窪田眞二

〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学教育学系

日本比較教育学会 第 43 回大会準備委員会事務局

Tel & Fax (029) 853-6739, 6817

E-mail jces43@human.tsukuba.ac.jp

第 6 回アジア比較教育学会大会報告

上智大学 杉村 美紀
名古屋大学 北村 友人

第 6 回アジア比較教育学会は、2007 年 1 月 8 日～11 日まで香港大学比較教育研究センターで開催された。大会テーマは"Learning from Each Other in an Asian Century"であり、地元香港比較教育学会の尽力のもと、香港内外から約 170 名の参加があった。日本からは参加者中最多の 41 名が出席し、ついでインドネシア 27 名、香港 20 名余のほか、5～8 名のグループとしてオーストラリア、カンボジア、中国、カザフスタン、タイ、アメリカ、イギリスが、また少数ながらアフガニスタン、カナダ、フランス、韓国、マカオ、マレーシア、シンガポール、オランダ、ノルウェー、スウェーデン、トルコロシア、ザンビアなど幅広い参加者が集まった。

大会は Kenneth King 香港大学客員教授の基調講演で幕をあげ、以下 Mohammad Fakry Gaffar アジア比較教育学会会長、Ka Ho Mok ブリストル大学東アジア研究センター長、Mark Bray UNESCO・IIEP 所長(世界比較教育学会会長)、Iffat Farah パキスタン・アガカーン大学教授、Shan Wen Jing, Peter & Jeong Sao Leng マカオ大学両教授、W.O.Lee シドニー大学 教授がそれぞれ基調講演を行った。

分科会は全部で 68 設定され、発表件数は 118 にのぼった。各分科会のテーマは、中等教育、高等教育、学校改革、教育政策、カリキュラム改革、学習(PISA)、シチズンシップ教育、音楽教育、アジアの言語政策、アジアの英語教育、識字教育、技術と教育、ノンフォーマル・職業教育、教師教育、国際教育、国際協力、貧困・ジェンダー・HIV/AIDS、マイノリティ、香港の教育、中国の高等教育、パキスタンの教育、比較教育学方法論と多岐にわたった。一部、当日キャンセルの続いた分科会もあったようだが、概ね活発な発表と討論がなされ、アジアにおける比較教育研究の裾野の広がりを印象づけた。

総会では、冒頭、本大会で次期アジア比較教育学会会長に選出された望田研吾会長が挨拶に立

ち祝福を受けた。また本年 9 月 3～7 日にポスニア・ヘルツェゴビナのサラエボで開催予定の第 13 回世界比較教育学会について、大会事務局担当者から概要についての説明が行われた。

大会初日夜に行なわれた懇親会は、香港島と九龍を結ぶスターフェリーを貸し切って行なわれ、香港の夜景を楽しみながら船上での歓談の場をもった。大会 2 日目夜のヴィクトリア・ピーク観光と共に、主催者香港大学側の粋な演出で参加者にとっては学会での議論とともに思い出深い香港滞在となった。また最終日のマカオツアーではマカオ大学はじめ現地の教育機関の視察が盛り込まれ参加者から好評であった。



今大会では、参加者全員に、アジア比較教育学会の紀要第 1 号および第 2 号とあわせ、香港大学比較教育研究センター編集の大著『比較教育学研究：アプローチと方法』(2007 年、444 頁)が無償配布され、同書編者の一人である Mark Bray 教授の比較教育学研究に関する基調講演とともに、比較の意味を問い直すことの意義を印象付けた。このことは、大会の様子を大きく取り上げた 1 月 13 日付の地元紙 South China Morning Post でも、国際化における多様性の問題の検討と、その成果をヨーロッパモデルに与することなくアジアから発信することの重要性が重視されていたという評にもみられるとおりである。

次回第 7 回アジア比較教育学会は 2009 年に韓国の国立光州教育大学で開催予定であり、本年 9 月のサラエボでの世界比較教育学会とあわせ、今後の一層の交流活動の活発化と学会を通じた国際交流の進展が望まれる。

お知らせ

日本比較教育学会倫理綱領（案）について

2006年度の第42回大会総会において審議された日本比較教育学会倫理綱領案について、総会で提起されたご意見をふまえて、2006年9月開催の常任理事会、同11月の全国理事会（書面会議）を経て、本年2月開催の常任理事会において修正された倫理綱領案を決定するに至りました。

つきましては、以下のように修正された倫理綱領案をお知らせいたします。また参考のために第42回大会総会に提案した倫理綱領案も併せて記載しています。ご意見などがございましたら学会事務局までお寄せください。

本年2月18日常任理事会決定学会倫理綱領(案)

日本比較教育学会倫理綱領(案)

1. 日本比較教育学会は、会則第6条の規定に基づき、学会としての社会的責任の明確な履行、並びに会員による研究の公正性の確保を目的として、この倫理綱領を定める。
2. 会員は、研究の実施にあたっては、法令等を遵守するとともに、調査地の文化、宗教、慣習を尊重する。会員は、自身並びに研究に関わるものの安全に留意する。
3. 会員は、研究の実施にあたっては、情報提供者に対して、その人権を最大限尊重し、身体的、心理的、社会的な危害を加えないように留意する。
4. 会員は、研究の実施にあたっては、情報提供者に対して当該研究の目的、研究経費の財源、研究成果の公表方法等について明確に説明する。
5. 会員は、研究の実施にあたっては、情報提供者のプライバシーを尊重し、個人データ等の秘密を厳守する。
6. 会員は、研究の実施にあたっては、資料、データ等の捏造、改ざんを行わない。会員は、研究の独創性および他者の著作権等の知的財産権を尊重する。

付記

1. 本綱領は平成19年6月30日より有効とする。

【会則改正案】

第2章 第6条に追加

会員は別に定める日本比較教育学会倫理綱領を遵守する。



第42回大会総会提出学会倫理綱領(案)

日本比較教育学会倫理綱領(案)

1. 日本比較教育学会は、会則第6条の規定に基づき、学会としての社会的責任の明確な履行、並びに会員による研究の公正性の確保を目的として、この倫理綱領を定める。
2. 会員は、研究の実施にあたっては、情報提供者に対して、その人権を最大限尊重し、身体的、心理的、社会的な危害を加えないように留意しなければならない。
3. 会員は、国内外を問わず、研究の実施にあたっては、情報提供者に対して当該研究の目的、研究経費の財源、研究成果の公表方法について明確に説明し、また成果の還元に努めなければならない。特に、海外での調査研究の場合には、情報提供者による理解を徹底させることに留意しなければならない。
4. 会員は、研究によって得られた情報提供者に関する個人データ等の秘密を厳守し、情報提供者のプライバシーが侵害されることがないように、最大限の注意を払わなければならない。
5. 会員は、調査研究にあたっては、調査地の法令等を遵守するとともに、その文化、宗教、慣習を尊重しなければならない。会員は自身ならびに研究協力者その他研究調査に関わる者の安全に留意しなければならない。会員は、当該調査地での将来における他者による調査研究を困難にするような行為を慎まねばならない。
6. 会員は、研究によって得られた資料、データ等を事実に基づき正確に提示しなければならない。会員は、資料、データ等の偽造、捏造、改ざんを行ってはならない。会員は、研究の独創性を尊重し、他者の著作権等の知的財産権を侵害してはならない。

【会則改正案】

第2章 第6条に追加

会員は別に定める日本比較教育学会倫理綱領を遵守しなければならない。

お知らせ

学会ホームページに
「国際交流委員会からのお知らせ」
のコーナーができました

今期国際交流委員会が始動してからはや1年半。委員の人選をお任せいただいたとき、専門対象領域の国際地域性と、在住・在勤地の国内地域性のバランスを考え、「グローバルなチーム」になるよう努めました。

目下のところまだこれといった大きな活動に至っておりませんが、委員間では「会員の多くが国境を越えて調査活動を行ったり、諸外国と直接つながったりするこの時代に、委員会として学会にどんな貢献ができるのか」を熱心に議論してまいりました。

その一端として、実現したのは、学会ホームページにおける「国際交流委員会からのお知らせ」コーナーの開設です(2006年10月より始動)。

ここでは、国際交流委員が、キャッチした有益と思われる国内外のセミナー・フォーラム・シンポジウム等の国際会議情報を随時ご提供いたします。会員がお近くの、関心ある行事に参加される際のご参考となれば、幸いです。

また、それだけでなく、会員各位が企画運営あるいは関与されている同様の会議情報を、国際交流委員会(連絡: 一見 mariko@nier.go.jp)までお寄せくださるよう、お願いいたします。ホームページに可能な限り掲載し、広報のお手伝いをいたします。

最後に、このたびアジア比較教育学会の香港大会に参加した杉村・北村両国際交流委員が本紙に参加記を執筆させていただきましたことも、国際交流情報伝達の活性化のひとつとしてご報告したいと思います。

(国際交流委員長 一見真理子)

世界比較教育学会

第13回大会のご案内

来る9月3日から7日まで、5日間にわたり第13回大会がボスニア・ヘルツェゴビナの首都サラエボ(会場サラエボ大学)で開催されます。大会の詳細な情報は大会ホームページ <http://www.wcces2007.ba/> でご覧いただけます。大会参加ご希望の方は、先のホームページにある Registration からお申し込みください。

新入会員

(2006年9月~2007年2月、入会申込み順)



- 下村 隆之(三重県立鳥羽高等学校)
- 小川 勤(山口大学 大学教育センター)
- 笹田 博通(東北大学)
- Coolican Mariana(神戸大学大学院生)
- 生津 知子(京都大学大学院生)
- 木全 晃子(お茶の水女子大学大学院生)
- 田平由希子(国際協力機構)
- 高野 篤子(横浜市立大学)
- 呂 光洙(広島大学大学院生)
- 大野由加里(一橋大学大学院生)
- 高柳 妙子(広島大学教育開発国際協力研究センター)
- 山崎 智子(東京大学院生)
- アナトラグリジャナティ(九州大学大学院生)
- 奥田 援史(滋賀大学)
- 石田 千晃(一橋大学院生)
- Ahmed Mohamed Nabawy Hassab Elnaby(筑波大学大学院生)
- Kunghae Suwit(筑波大学院生)

(2007年2月18日現在の会員数 849名)

紀要編集委員会より

紀要の年2回発行に移行してから3号目に当たる第34号も、所定に時期に皆様のお手許にお届けすることができました。一昨年(2005年)の大会開催時から手探りで進めてきた編集作業でしたが、どうやら軌道に乗り、手順が固まってきたように思われます。十分な数の投稿論文が集まるか、質の低下を招かないかなど、年2回発行に伴う懸念もほぼ杞憂に終わったようです。毎号20数篇の投稿があり、査読に当たる編集委員にはかなりの負担ですが、全員の協力により任務を遂行しています。任期の半分を終えたところで、次号(35号)からは若干の委員の交代とともに、近藤副編集委員長の責任編集となり、目下、鋭意作業を進めています。なお、大変残念なことです。英文要約が所定の語数の半分にも満たないものも含めて、毎号2、3篇の論文を投稿要領違反のために不受理としなくてはなりません。紀要巻末に掲載の要領を遵守の上、委員がさらに嬉しい悲鳴を上げるほど会員諸氏からの多数の力作が投稿されることを期待しています。

(編集委員長 大塚 豊)

日本比較教育学会事務局
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門
Tel&Fax (092) 632-8426
E-mail jces-edu@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp
<http://www.soc.nii.ac.jp/jces/index.html>